

## 事前のアンケートから

〈あなたにとってスマホ・ケータイとは?〉

- 生活必需品。常にスマホが手元にある状態。(20代)
- スマホの便利さに今では手放せない状態。家族との連絡、写真・動画も見られて、LINEも便利。一人一台、必需品になっている。(50代)

〈子どもがスマホを操作すること、IT機器やAIの生活への浸透について〉

- 将来を考えると早くから扱いに慣れるのは重要。けれども、様々な発見や学びがあり、情操が育まれる幼少期にスマホ等に過度に没頭するのはもったいない。小さな画面を見つめて過ごすよりも、自然の中で遊んでほしい。(20代)
- 生活は便利になり、大変良いことだと思う。それを扱う人間の身体・精神は確実に退化していくのでは。意識改革が必要。(20代)
- 親としては心配な反面、忙しいときなどは頼ってしまう。(40代)
- 孫を見ていても、幼児がすぐに反応して興味を持っている。生まれながらにしてスマホが身近にあり、親の管理がとても大事と思う。(60代)
- 急激に変化する読書や親子での会話等の習慣を思い、<sup>あんたん</sup>暗澹とした気持ちになる。社会の本質的な変化を促す要素として慎重に考えていくべき。(60代)

## 参会者の感想から

- 絵本の読み聞かせについては、すばらしい朗読でした。内容も考えさせられるものでした。『ママのスマホになりたい』と素直に思わず、心を痛めたまま別の行動に走ってしまうお子さんも多いのだらうと思いました。スマホをはじめ情報機器が便利になっています。上手に使用することと、子どもたちの状況に応じた指導、支援の必要性を感じました。(教育関係者)
- ネット依存症のような問題としてこの本を読むこともできるけれど、一人で子育てをしている母親の物語にも読めると思った。もっと社会が育児に手をさしのべたら、ママもこんなにスマホに依存しなくて良いのかもしれないね。余裕のある子育てのできる環境が大切だと思います。(役場)
- 結論が出ない会ではありますが、あらためて自分が便利に使っているスマホの危険の面を認識した会でした。このような会に20代、30代の若いママに出席してもらい、現在の実態を聞いてみたいと思いました。(各種委員)
- 要は使い方であり、本人の自覚を促すことが一義。親と子の世代間の価値観の違いがあり、無理強いをすると妙なことになるかも? スマホの多機能性は認めた上で、どの機能をどのように使うかを子どもたちに伝える、あるいは一緒に勉強をしていくことが大事か?(地区役員)
- 機器の浸透はやむを得ないが、一日中でなく、時間を決めてとか、高い視野からものを見る等、良いこともあるので、家族で相談してルールを決めて、他の世界のこともやるようにしてほしい。(婦人会)



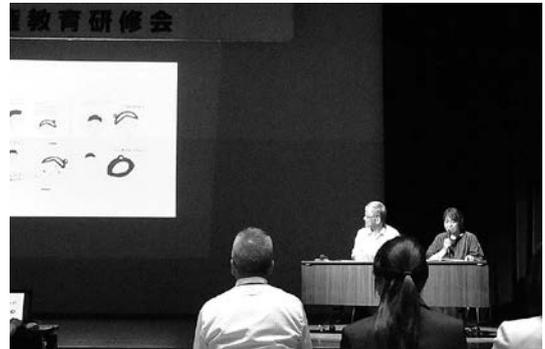
# 人権教育研修会の報告

町人権教育研修会・9月20日(木) \*64名が出席

テーマ 「今、そしてこれからの子どもたちに大切なこと」

～子どもたちの未来を、より豊かで楽しく実りあるものにするために～

- (1) はじめの会 : 14:00～  
教育長挨拶
- (2) 全体会 : 14:10～14:40  
絵本読み聞かせ公演『ママのスマホになりたい』他  
※おはなしのへや増澤洋子さんの絵本の読み聞かせ他
- (3) 分散会 : 14:45～15:55  
※6分散会に分かれて、自由討議
- (4) 終わりの会 : 16:00～16:30



- ① 参会者の感想発表 (3名)      ② 講師講評 (水野直昭南信教育事務所指導主事)

## 松崎教育長挨拶から (抜粋)

当町では、「人権感覚の育成と尊重」に関する方針といたしまして「他人を思いやり、命を大切にする社会を実現するため、町民一人一人が人権問題を自分の問題として捉え、考えることができるよう、地域、学校、家庭や、関係機関の連携により、各種研修会の実施、啓発活動などを通じ心情に訴える人権教育を一層推進します」と発信しています。特に「命を大切にする社会の実現」に向け、一昨年度より研修を深めてまいりました。

一昨年度は、町内の音訳ボランティアグループ「やまびこの会」の皆様による絵本『ピリカ、おかあさんへの旅』の読み聞かせを觀賞していただき、命が受け継がれると言うこと、生命尊重とそれを支える自然・人・社会のあり方を考える研修会でした。

昨年度は、フランクフル著「夜と霧」という本の、朗読公演をお聴きいただき、戦争中、強制収容所の中で人間の尊厳を保ちながら、極限状況を生き延びた著者の、生きる意味や人生への希望を求めていく手がかりを探ってまいりました。

本年度は、「今、そして、これからの子どもたちに大切なこと」をテーマといたしました。全体会では、おはなしのへやの増澤さんの読み聞かせ『ママのスマホになりたい』をお聴きいただきます。分散会では、ご参集の皆様一人ひとりの思いを存分に語り合っただけでしたら嬉しく思います。皆様からお寄せいただいた事前アンケートには様々な貴重な内容がありました。そのお考えを素にしてのご感想、お考えを含めていただいて結構ですので、忌憚のないご意見をお出し下さい。

本日で指導いただく講師の先生は、南信教育事務所生涯学習課指導主事、水野直昭先生です。先生におかれましては、本年度よりこの研修会のご指導をいただいております。本日は大変お世話になりますが、よろしく願いいたします。





## 『ママのスマホになりたい』 さく・のぶみ

お話は、「ブロックの スゴいのが できたから 『ママ～！ これみて～～』 って いったのに」スマホばかり見ている、振り向いてもくれないかんたろう君のママのことから始まります。かんたろう君は、そんなママに対抗策を考えますが……。かんたろう君の心の叫びは、ママに通じたのでしょうか。

『ママのスマホになりたい』（WAVE出版）

### 下諏訪町人権教育研修会の指導内容について

南信教育事務所生涯学習課 指導主事 水野 直昭 先生

人権教育研修の訪問をさせていただいた際、下諏訪文化センター内に、統計グラフコンクールのポスターが展示されていました。そこには、「小4でスマートフォンを持っている人は？」「小5でインターネットを使っている人は？」「中2で無料通話アプリをしている人は？」など、いろいろなデータを載せてくれていました。小中学生もいろんなことを考えているんだなということが分かるので、是非機会があればご覧いただければと思います。



全体会では、『ママのスマホになりたい』の読み聞かせをしていただきました。実際読んだことがある方もいたと思いますが、「読み聞かせ」で聞くと、また何か違った感じに聞こえます。自分で読むよりももっと「こういうことに気をつけなきゃいけないな」と感じたのではないのでしょうか。

「ネット依存からどのように子どもたちを守るか」という本の紹介もありました。これに関して、10代のスマホなどを利用する時間帯を調査したデータを見ると、一番多いのは「帰宅してからベッドに入るまで」で、その次に多いのは「ベッドに入ってから寝るまで」となっています。学校で起こるトラブルの中にも、無料通話アプリが原因なものが数多くあります。学校の中で発覚し、指導されるケースも多いですが、家庭においてパソコンやスマホを介した内容についてのトラブルが目立ちます。学校だけに解決を任せるのではなく、家庭や地域での対策が急務であると思います。

分散会では、活発に意見を交わしている中で、注目したい件が2つありました。

ひとつ目は、教育のIT化に関することです。学校で一人1台タブレットを与えて授業することはできるが、それをあえてせず、2～3人に1台与える中でコミュニケーションを取らせるようにするという、取り組みの工夫をしているという意見がありました。

ふたつ目は、読書の大切さです。本を読むということは、漫画や映像では得られない「想像」の世界が広がります。それは、「創造」を生みます。人がこれから未来を生きるのに必要な力「創造力」は、本読むことから始まる気がします。

子どもたちの悩み相談は、現在電話ではなく無料通話アプリで行う時代です。また、落ちつきがないような子でも、ロボット製作やプログラミングでは集中できる場合もあります。

今後、ITやスマホなどをどのように使って、どのように付き合っていくかというような、このような話し合いの場も必要です。また、他地区のPTA連合会ではチラシを配って啓発活動をしていますし、毎月1日をノーメディアデーにしている市町村もあります。

今後も、学校、家庭、地域が一体となって、この問題に取り組んでいきましょう。

# 人権教育研修会の報告

## インターネットと

### 子どもについて

産業振興課 今井 風馬



私には2才になる息子がいます。息子もいざれスマホやインターネットに興味を持って関わると思います。私は今回の分散会で、その関わり方を主な題材としました。

姉に4才の子どもがいるのですが、たまに実家に帰ると、その甥っ子が「ユーチューブ見たい、動画見たい」と姉からスマホを奪い取って食い入るように動画を見ている光景をよく見ます。息子もいざれこんな感じになるのかなとちよつと不安に感じることがあります。今の時代、ネット環境が私の家も含めてほとんどの家庭にあり、インターネットを使うのは仕方ないことだと思いますが、付き合い方が重要だと感じています。

分散会で他の方のお話を聞いたところ、夜10時以降はWi-Fiが使えないように設定したり、スマホの充電はリビングだ

けなど、皆さんいろいろ対策をしていました。そういった話を聞いて、私も嫁とこれからの対応を検討したいと思います。

また、インターネットの利用時間が増えると、人との直接的な関わりが希薄化したり、思慮が浅くなり、学力が低下するという話も聞きました。子どもが小さいときからたくさん絵本を読み聞かせをすることによって、そうではない子どもより学力が高いということも初めて知りました。私はあまり読んであげたことがないので、反省して改善したいと思います。

## 人権教育研修会の感想

下諏訪中学校 小山 貴司



まず、『ママのスマホになりたい』という絵本の朗読を聴き、親がスマホに夢中になり過ぎて、幼少期に温かい親子関係が欠如した状態で育った子どもが将来どうなるかと、とても心配にな

## 学校現場にいる私が

### できることは何か

花田養護学校 清水 智美



まず一つは、子ども同士が直に関わる機会を大切にすることです。相手と目を合わせて話したり、身体を動かして気持ち良さを共有したり。「考え方は、一つじゃないんだ」「こんなに楽しいんだ」と、自然に思える教室の大切さを改めて思いました。

もう一つは、ネット利用や身

りました。

次に、『心と身体を蝕む「ネット依存」から子どもたちをどう守るのか』という講演の中で、ネット依存によって心や身体の健康を損なう例を聞き、一日の中で全くスマホなどのIT機器を使わない時間を意識的に作ることで、とても大切であることに実感しました。

しかしながら、これからの時代、IT機器やインターネット

体に起こっている問題について、子どもや保護者と勉強していくことです。私は今回の研修資料を読んで、まだまだ知らないことがたくさんあることに驚きました。便利な機器ですが、危険な面も併せ持っていることを知る必要があります。

生まれたときからスマホがある環境で育った子どもたち。そして、パソコンやスマホと段々進化していった時代を経験している私たち。ネット利用の考え方は違うかもしれませんが、子どもにもルールを押しつけて、ではなく、一緒に考え合って、上手にネットを利用していく大切さも、伝えていきたいです。

を使わずに生活していくことは考えられません。教育現場でも、授業の中でどんどん取り入れていこうという流れでもありません。だから、本当に良い使い方を模索し続けなければいけないと思います。特に、人間同士が画面を通さず直接コミュニケーションをとれる環境を維持しながら、IT機器を使っていかなければいけないと思いました。

歴史の町下諏訪。各区に眠っているお宝を、地元の方に解説していただきました。

区民のよりどころ「神明神社」について

社東町（第八区） 牛尼 利男



国道の社東町信号を北へ百米程行くと、小さな社があります。これが社東町住民の産土神、神明神社です。建御名方神、八坂刀売神、天照大神、宗良親王の四柱を祀っています。



神明神社

この場所は、『諏訪史蹟要項 長地村編』に、伝説として次のように載っています。「往古神明原と称し、神明ノ木を以て海水の上下を見定めたと伝えている建御名方命の御神蹟である。宗良親王下社春宮神職矢島正忠に奉ぜられて柴宮に居館あらせられた時、壮大な御所御造営遊ばす地として選ばれ、注連縄を張り地鎮祭を行わせた、注連の木という所以である」

また享保一八年（一七三三）高島藩主諏訪忠林が各村に命じて描かせた、一村限村絵図の東堀村の図に、田の中に一本の木が描かれ、

神明木と記されていて、神明の木は集落ができるずっと以前からあったと思われる。

この地域は以前は田んぼで、中山道が一本通り、東堀村の区域でした。それが明治になって人家が

できはじめ、明治九年に旧中山道沿いに九戸、明治二九年には現在の国道が旧中山道と並行して開設されたため、国道沿いに三五戸になったので、東堀から分離して新しく、長地村東町区として出発しました。

そこから先人達の新しい村づくりが始まり、何もないところゼロからの出発で、大変苦労された町づくりだったと思います。その中で、大正十二年に区民がお金を集め、区民のよりどころ産土神として、ここ神明木様と呼ばれ榎の枯れ木が残り、数々の伝承のあるこの場所に社を建て、神明神社としたのです。榎



神明木

の枯れ木は御神木として大切に保存されています。

神明神社の祭は十月十日で、毎年大勢の区民が集い楽しみ、交流を深めています。まさに町づくりの原点があると思います。南北朝からの思いを馳せ、参拝するのもロマンを感じるところです。

言葉は足りませんが、社東町唯一の史蹟として神明神社を紹介いたします。旧中山道を歩きながら、ちょっと寄り道をしてみてください。

## ★平成31年 下諏訪町成人式のお知らせ

成人該当者：平成10年4月2日～平成11年4月1日までに生まれた人



期 日：平成31年1月13日（日）

受 付：午前11時30分

入 場：受付終了次第

開 式：正午

場 所：下諏訪総合文化センター

該当者（当町在住の方・親等が在住の方）には、出欠席の往復ハガキを11月初旬にお送りしました。必要事項をご記入の上ご返信ください。

### 記念となる成人式を自分たちで運営してみませんか？

成人を迎える方の中から、成人式運営スタッフを募集します。役割は、式典受付・町民憲章の唱和・成人の詞・司会・祝電披露などです。希望される方はご連絡ください。

問い合わせ：下諏訪町教育委員会 生涯学習係 ☎27-1111（内線718）

## 下諏訪町立図書館やまびこの会会員が 朗読録音奉仕者の表彰を受けました。

公益財団法人鉄道弘済会は毎年朗読録音奉仕者の表彰を行っています。今年、視覚障がい者等のために音訳をしている加藤美和子さんが奨励賞を受賞なさいました。加藤さんは、11タイトルの本を音訳をしています（およそ137時間）。毎日1～2時間録音し続けてきた努力が評価されての受賞です。

下諏訪町立図書館 井上



### 11月6日

十二月に入ると、嫁ぎ先の川魚店の店先はいつもに増して忙しくなり、家族総出で夜遅くまで仕事をし、そのままの勢いで大晦日に。

その年最後の日も夕方まで忙しく、それでも紅白のテレビが始まるころまでにはお年取りのお料理を並べ、家族みんなで食卓を囲み：「お疲れさま。今年一年どうもありがとう」そう言って家族みんなが顔を合わせた瞬間、それまでの忙しさと緊張から解放され肩の荷が下りたような何とも言えない幸せな気持ちになったことを今でも覚えています。これが下諏訪に来て私が初めて経験した年末・大晦日でした。

子どもの頃、お餅つきをしたり時間をかけて大掃除をしたり、母と一緒におせち料理を作ったりもしました。社会人になると職場である病院で、仕事をしながら職場の仲間とインスタントの年越しそばを食べたこともありました。

人それぞれに様々なお年取りがあります。けれども、どの人にも同じように一年が終わって新しい年がやってきます。昔の歌で「今年の出来事がすべて好きになる」というフレーズがありました。もちろん楽しい出来事ばかりではないはずですが、新しい年に向けて気持ちが前向きになれた気がしました。

みなさんにとって今年はどうな一年でしたか？  
来年がみなさんにとってステキな一年になりますように。

（林 美奈）